

会 議 事 録

1 会議名	平成24年度 第1回長岡市高齢者保健福祉推進会議
2 開催日時	平成24年8月22日(水曜日) 午後2時から午後3時30分頃まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員) 本田委員長 長谷川剛副委員長 赤柴委員 磯部委員 今井いみ子委員 加邊委員 柄澤委員 菊池委員 鯉江委員 小林委員 小山委員 佐合委員 関委員 関本委員 竹内委員 竹日委員 長谷川和明委員 藤巻委員 松田委員</p> <p>(事務局) 福祉保健部長 福祉保健部次長 福祉総務課長補佐ほか関係職員 介護保険課長ほか関係職員 長寿はつらつ課長ほか関係職員 健康課長ほか関係職員 長岡市社会福祉協議会事務局長</p>
5 欠席者名	今井正昭委員、小坂委員、近藤委員
6 議題	<p>(1) 第4期長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について</p> <p>(2) 第4期介護保険事業計画基盤整備計画の実績について</p> <p>(3) 地域密着型サービス運営部会開催結果の報告について</p> <p>(4) その他</p>

7 審議の内容	
発言者	議事内容
福祉総務課長補佐	<p>1 開会</p> <p>ただいまから、平成 24 年度第 1 回長岡市高齢者保健福祉推進会議を開会いたします。</p> <p>本日は、今井正昭委員、小坂美枝子委員、近藤和義委員は、所用のため御欠席でございます。また、小林守委員につきましては、所用のため若干遅れるという御連絡をいただいております。小山剛委員につきましては、所用のため途中退席ということで御連絡をいただいておりますので、あらかじめお伝えいたします。</p> <p>それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。事前にお配りした資料といたしまして、「資料 1 長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 進捗状況報告書」、「資料 2 第 4 期介護保険事業計画基盤整備計画の実績について」、「資料 3 平成 24 年度基盤整備計画における公募選定結果」、また、本日の配布資料といたしまして、本日の配席図と、第 5 期計画 61 ページの差し替え資料を机上に配布させていただきました。以上でございます。不足の資料はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、本日の議題に入ります。ここからの進行は、本田委員長様にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>ごめんください。本日は大変暑いですが、この委員会も前回は 3 月で残雪が残るなかで開催され、そこで第 5 期の長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画ができました。この委員会を年に 1 ～ 2 回設けて、今までの実績や進捗状況を確認していくということに会議の意義があるかと思えます。本日は主に、第 4 期計画の実績や進捗状況及び地域密着型サービス運営部会の報告を受けながら進めていきたいと思えます。会議は午後 3 時半までということで御協力をお願いいたします。</p> <p>議題に入る前に、会議の傍聴について確認したいと思います。この会議は公開しております。本日は傍聴希望者がいらっしゃいますので、このまま会議を進めさせていただきます。</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 第 4 期長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗</p>

<p>委員長</p>	<p>状況について</p> <p>第4期長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>座ったままで御説明させていただきますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、「資料 1 長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 進捗状況報告書」を御覧ください。高齢者の概況ということで、1～4ページまで御説明させていただきます。</p> <p>まず、1ページの表の人口構造と被保険者の状況を御覧ください。総人口は、毎年1千人くらいずつ減少しているという状況でございます。この表の下段にある高齢化率は、そのうち65歳以上が占める割合ですが、団塊の世代が高齢期を迎え上昇傾向にあり、今後も高齢化が進んでいくということになります。参考までにお話しいたしますが、平成23年10月1日現在の高齢化率は、全国平均が23.4%、新潟県平均が26.4%で、新潟県は全国より3%高くなっている状況でございます。この表にありますように、長岡市は県より1.1%低くなっております。県内30の市町村中、長岡市は低い方から数えて5番目という位置になります。</p> <p>続きまして、2ページの圏域別人口及び高齢者人口の状況の表を御覧いただきたいと思っております。圏域別では、高齢化率が最も高いのは山古志圏域、最も低いのは川西北部圏域で、この川西北部圏域は具体的には、旧長岡市の下川西、上川西、福戸、王寺川地域という状況でございます。</p> <p>続きまして、3ページの要介護者等の状況の表を御覧いただきたいと思っております。認定者数及び認定率ということで、認定率は欄外にも書いてございますが、第1号被保険者数に対する第1号認定者数の占める割合として捉えております。いずれも増加しており、全般的には、介護度の重度化が進んでいる状況でございます。こちらも参考までに、昨年の7月31日時点の認定率でございますが、新潟県平均が18.2%、長岡市は17.9%ということで、県平均よりも0.3%低くなっているという状況でございます。また、要介護3以上の重度者の割合ですが、新潟県平均が43.2%、長岡市が45.1%ということで、こちらは逆に1.9%高くなっているという状況であります。県内30市町村のうち、中ほどに位置しているという状況でございます。</p>

<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>続きまして、4ページを御覧いただきたいと思います。要介護度別サービス利用者数の表でございます。居宅サービスと、地域密着型サービスの利用者数は増加傾向で、特に地域密着型サービスにおいては施設整備が進んだこともあり、利用者の伸びは大きく上昇いたしました。施設サービスについては横ばいの状況でございます。介護サービスの利用実態を見ますと、要介護1～3の人というのは居宅サービスの利用が多い一方、最も介護度の重い要介護5の人は施設サービスの利用が5割以上という状況になっております。私からの説明は以上でございます。</p> <p>私も座ったままで説明させていただきます。</p> <p>私からは5～6ページ、第1章の元気な高齢者の生きがい活動支援について御説明させていただきます。全体といたしましては、計画どおりに大筋で推移しているところでございます。</p> <p>5ページの下段になりますが、老人クラブ活動の支援でございます。これについては、高齢者人口が年々増加しているにも関わらず、新規会員の増加が伸び悩んでおり、役員のなり手がいない等のクラブがあります。クラブ数・会員数ともに減少傾向が続いております。現在、老人クラブ連合会と老人クラブは、魅力ある組織になるよう、活動内容等について協議を継続して行っているところでございます。</p> <p>6ページを御覧ください。シルバー人材センターについては、ほぼ計画どおりであります。引き続き、高齢者が健康に働けるように支援してまいりたいと思っております。以上で第1章の説明を終わらせていただきます。</p>
<p>健康課長</p>	<p>続きまして、私からは7～9ページまで、第2章の健康づくりの推進について御説明申し上げます。座ったままで失礼させていただきます。</p> <p>平成21～23年度までの実績値につきましては、記載のとおりでございますが、主な取り組み状況について御説明させていただきます。第1節の健康な生活を続けるためにでございますが、市民自らが生きがいを持ち、健康でいきいきと暮らすために、家庭・地域・行政が連携して、健康づくりの推進に努めてきたところでございます。</p> <p>まず、健康づくりの意識啓発でございますが、健康づくり井戸端</p>

<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>会議を、旧長岡地域では 13 地区、支所地域で 2 地区実施いたしまして、309 人の参加がございました。なお、平成 24 年度におきましては、ながおかヘルシープラン 21 の次期計画策定の年でございます。全地区で、この健康づくり井戸端会議を実施する予定でございます。</p> <p>食生活改善推進委員養成教室は、長岡・中之島・越路の計 3 会場で実施いたしました。</p> <p>また、市民の健康意識啓発や、関係機関・団体を含む健康づくり活動の定着を図るため、すこやか・ともしびまつりを開催いたしまして、平成 23 年度は近年では最大の来場者数となっております。</p> <p>2 健康増進施策の充実であります。市民ひとり一人が生活習慣病予防や健康増進に関する正しい知識を身につけていただくため、各地区で健康教育を実施しました。</p> <p>(2)健康相談でございますが、健康センター、あるいは各地域におきまして、検診結果を踏まえた相談会等を開催し、心身の健康に関する個別相談に応じるとともに、必要な助言・指導を行ってきたところでございます。また、こころの健康相談では、医師や臨床心理士などの専門家による相談会を 10 会場で実施いたしました。</p> <p>8 ページ、健康診査の実施状況でございますが、特定健康診査から前立腺がん検診までの受診率におきましては、各検診とも微増・微減の状況が続いているところでございます。さらなる受診率の向上を図るため、受診しやすい環境づくりのひとつといたしまして、日曜日の検診実施ですとか、未受診者への受診勧奨を行っているところでございます。</p> <p>9 ページ、健康手帳の交付でございますが、健康診査結果等を記録し、健康管理と適切な医療の確保に役立てていただくため、健康手帳を無料で交付しているものでございます。私からの説明は以上であります。</p> <p>続きまして 10 ページをお願いいたします。3 はり・きゅう・マッサージ施術費の助成ですが、この制度の周知等に努めてまいりましたが、利用者が横ばいのため、交付枚数に対する利用率も 60% と低迷しております。平成 22 年度に交付枚数を 6 枚から 4 枚に変更させていただきました。</p> <p>11 ページをお願いします。第 3 章 介護予防事業の推進ですが、介護予防を推進することにより要介護状態になることを防ぐだけ</p>
-----------------	--

<p>介護保険課長</p>	<p>でなく、高齢者が地域において健康でいきいきと生活し、人生を送るといった目的がございます。第1節 介護予防事業の表のとおり、左側にある虚弱な高齢者対象の事業、元気な高齢者対象の事業、どちらの方も参加できる共通な事業の一覧表となっております。この表の一番上にありますが、平成23年度特定高齢者把握事業の特定高齢者数でございます。23年度計画値では4,127人に対し、実績値は14,029人で、9,902人の増加であります。これは特定高齢者の把握方法が23年度から変わったためであります。具体的には、毎年、特定健康審査と併せて介護予防基本チェックリストを実施してまいりましたが、23年度からは基本チェックリストのみで特定高齢者を把握できるようになったため、急増したものであります。</p> <p>12ページを御覧ください。介護予防への意識・関心度でございます。平成20年度の長岡市高齢者等生活実態調査は、65歳以上の抽出調査に対し、23年度の長岡市高齢者日常生活圏域ニーズ調査は、65歳以上で要支援・要介護者を除く健康な人約58,000人に送付し、回答者40,136人について調査したものであります。この表の一番上の介護予防の必要性を感じている人(・関心のある人)の割合は、平成23年度実績値は、調査対象が拡大したために56.4%でございました。介護予防事業への参加意向は46.2%でございます。参加率は若干ながら向上傾向が見られております。</p> <p>第3節 地域包括支援センターは、地域における高齢者の心身の健康維持を目的とした総合相談・個別相談による実態把握、地域におけるネットワークの構築支援等を行うため、社会福祉士、保健師、主任ケアマネジャーの3職種の職員を、3～5名配置して実施しております。計画値はほぼ達成しております。その中でも相談延人数の実績値は、計画値を大きく上回り、8,860人増の37,060人となっております。</p> <p>13ページを御覧ください。各地域包括支援センターの一覧表です。23年度からは地域包括支援センターやまこしが、地域包括支援センターみやうちに統合され11箇所となっております。第3章の説明は以上でございます。</p> <p>続きまして、第4章 介護保険サービスの基盤整備と質の向上について、14～22ページを説明させていただきます。</p> <p>まず、14ページの第2節 介護保険事業費等の見込みの、4 施設・居住系サービス利用者数の実績の表を御覧ください。表の下か</p>
---------------	--

ら2段目の欄を御覧いただきたいと思います。要介護2以上の人のサービス利用率についてでございますが、平成23年度の実績で37.1%となりました。これまでは国の基本指針によりまして、平成26年度において利用率を37%以下とするという基準、これを施設整備に係る参酌基準という言い方をしていたのですが、これが平成22年の10月に撤廃されているという状況でございます。この状況の中で、今回37.1%という数字が出ており、これは当然基準違反ではありませんが、今後安定した介護保険財政を維持するためには、抑制していく必要があると思っております。

次に表の一番下の欄の、施設利用者に対する要介護4～5の者の利用率についてですが、平成23年度実績で、記載のとおり64.7%となりました。これにつきましては国の指針で平成26年度において、この利用率を70%以上とする目標値がありますので、引き続き第5期計画で目標の一つとして、施設整備を進めていこうと考えております。

続きまして15ページの介護保険サービスの実績を御覧ください。

(1)居宅介護サービスを御覧いただくと分かるのですが、訪問介護、通所介護、及び短期入所生活介護、これらが居宅介護サービスの柱となっており、それぞれの利用は増加しておりますが、訪問介護はあまり伸びませんでした。

次に(2)地域密着型サービスでは、サービスの認知と施設整備に伴いまして全体的に利用は伸びてきておりますが、その中で地域密着型特定施設入居者生活介護は、予定していた施設の事業開始が大幅に遅れたため、計画値を大きく下回るという結果になりました。

続きまして16ページの介護予防サービスの実績を御覧ください。

(1)介護予防サービスでは、要介護状態の悪化を防止したいという意識の現われから、機能訓練を受けることができるサービスの利用が増加しております。それに合わせまして、福祉用具貸与も大幅に計画を上回ったという状況でございます。

続きまして17、18ページを併せて御覧いただき、御説明させていただきます。これは介護と介護予防の給付実績でございます。18ページが一番下の欄の、総給付費を御覧いただきたいと思います。平成23年度実績で、サービス費用の合計額が約204億円と出ております。これ以外に高額介護サービス費、高額医療合算介護サービス費、特定入所者介護サービス費、及び審査支払手数料といったものを204億円に合わせますと、総額で約216億円の保険給付費が支出さ

長寿はつらつ課長

れたという結果になってございます。この保険給付費の支出については、御存知のとおり保険料と国・県・市の負担で賄っているということでございます。

続きまして19ページの地域支援事業費の実績を御覧ください。上段の介護予防事業費用額(A)と、中段の包括的支援事業及び任意事業費用額(B)につきましては、それぞれ第4期計画策定時の保険給付費見込額の2%以下、地域支援事業費用額(A)+(B)につきましては第4期計画策定時の保険給付費見込額の3%以下といった上限割合の定めがあります。今ほどのところの各欄を御覧いただければかっこ内に割合が記載してございますが、いずれも2%、3%という上限割合を下回ったという結果になっております。補足の説明をさせていただきますが、上の介護予防事業費用額の内訳の3番目、特定高齢者把握事業(生活機能評価)がありますが、平成23年度実績値が「-」になっていると思います。これは「0」ということですが、地域支援事業実施要綱の改正がございまして、生活機能評価が廃止されたことにより、当初の計画はあったのですが実績値は0ということになりました。これが大きく作用しているかと思いますが、第4期計画策定時の保険給付費見込額に対する割合は大幅に低く抑えられたと思います。

続きまして、20ページの保険料の算定に係る実績の表を御覧ください。第4期計画の介護保険料基準月額4,396円とするために、表の下段にある介護従事者処遇改善臨時特例基金及び介護給付費準備基金を取り崩して対応いたしました。

続きまして21ページの介護相談員派遣事業につきましては御覧いただき、特に説明はございません。私からの説明は以上です。

続きまして23ページをお願いします。第5章 自立した生活の支援体制整備、第1節 在宅での生活を支援するために、1 在宅介護支援センターですが、23年度から地域包括支援センターに移行したため廃止となりました。3 車いすの貸与につきましては計画値に達しておりませんが、実績は年々増加しております。

この部分で、第5期計画に訂正がありますので説明させていただきます。差し替えの別紙として配布した表があります。これは第5期長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の61ページになりますが、(2)車いすの貸与の数字の集計方法に間違いがあり、数値に誤りがありました。訂正をお願いしたいと思います。正しくは21

<p>福祉保健部次長</p>	<p>年度の実績が101台、22年度の実績が150台、23年度の計画値が230台、実績値が185台です。なお24・25・26年度の計画値につきましては、それぞれ230台に訂正させていただきたいと思います。大変申し訳ありませんでした。</p> <p>それでは、引き続き第4期計画の進捗状況報告書に戻ります。24ページを御覧ください。5 寝具丸洗いサービスと、ページの一番下の第2節 在宅介護にあたる家族の支援の1 家族介護見舞金支給と、25ページの2 紙おむつ支給の3事業につきましては、23年度で制度を廃止しました。24年度からは新事業として、在宅介護者支援事業となりました。</p> <p>また24ページに戻っていただきたいと思います。6 居宅介護支援事業等(直営)につきましては、居宅介護支援事業所やまこしは22年度で廃止になっております。</p> <p>25ページの第3節 認知症高齢者支援体制の推進、1 認知症サポーターの養成は、認知症についての正しい知識を普及・啓発し、認知症高齢者を地域で支えるよう積極的に推進してきました。その結果、計画値を大きく上回り7,884人の実績値を得たものであります。</p> <p>続きまして、27ページをお願いしたいと思います。第5節 緊急時の安心のためにですが、安心連絡システムの設置につきましては19年度から実施している事業であります。計画値を下回り、年々低下傾向にあります。しかし、ひとり暮らし高齢者には大変有効なシステムでございます。今は少しずつ増加傾向にありますので、24年度からは特に力を入れてPRしております。以上で私の説明を終わります。</p> <p>続きまして第6章になります。よろしく申し上げます。それでは28ページを御覧ください。ここに書いてございます(1)地域福祉・在宅福祉サービス事業から、(4)ふれあい型食事サービスまでにつきましては、社会福祉協議会が実施している地域福祉活動の事業でございます。</p> <p>(1)ボランティア銀行ですが、住居の清掃や整理、通院・外出時の介助、買物等に会員として協力する人、それから会員として利用する人の登録制によって行うサービスで、長岡地域31地区、支所地域5地区の合計36地区で実施をしているものでございます。23年度の年間総利用回数の実績値は、延べ利用者数で減少したことにより前年度を若干下回りました。今後も社会福祉協議会と連携をしながら</p>
----------------	--

ら、各地域の登録会員数を増やすなど活動拡大に支援を行っていき
たいと考えています。

(2)福祉送迎サービス事業でございます。この事業は、以前はボ
ランティア銀行のサービスの一つとして、自家用車による送迎サー
ビスを実施してきたところでございますが、平成18年の道路運送法
の改正により有償での送迎が大きく制限されたこと等から、ボラン
ティア銀行のサービスからはずし、福祉送迎サービス事業という名
称で、現在20地区で実施しているところでございます。23年度の年
間総利用回数の実績値ですが、前年度に比べまして400回ほど上回
っている状況です。この事業は、今後とも支所地域等を含めまして、
精力的に進めていきたい事業の一つでございます。

(3)小地域ネットワークづくり事業は、地区内でのひとり暮らし
高齢者の見守り・訪問・安否確認等の支援活動を行う事業でござい
ます。23年度の利用世帯数でございますが、22年度を若干下回って
おります。また対象世帯数につきましては、民生委員が毎年行って
いる高齢者現況調査からデータを引用しており、現在集計中ですの
で見込数を掲載しております。秋頃には実績値が出る予定でありま
す。この事業につきましても、今後、地域ごとの組織づくりの支援
を、社会福祉協議会と連携しながら行ってまいりたいと考えており
ます。

29ページの(4)ふれあい型食事サービス事業につきましては、利
用者の23年度実績は、前年度から減少しております。年間総回数で
はそれほどの回数減にはならず、ほぼ計画どおりの回数となって
ございます。この事業は長岡市全域での実施ということでございま
す。

最後になりますが、30ページを御覧ください。第7章 高齢者に
やさしい環境の整備でございます。下段の第3節 安心して暮らせ
るまちづくりですが、災害時の安全確保の自主防災会の結成及び活
動状況でございます。これは地域での防災体制の整備ということで
ございますが、結成率も年々上昇傾向にあるということで、23年度
実績では結成率が90.45%、活動実施は76.80%と、多発する自然災
害への備えという観点から防災意識の向上が見られる一方で、自主
防災組織の立ち上げに消極的な地区への働きかけ等が課題だと考
えております。

それから31ページの表ですが、地域における防災リーダーの養成
を目的に開講しました中越市民防災安全大学を卒業した方が、中越

	<p>市民防災安全士に登録されます。18年度からの累計の人数が書いてございます。実績値が283人の状態でございます。他の表につきましては、高齢者交通安全教室の開催状況、ひとり暮らし高齢者宅訪問防火指導実施状況でございます。内容については御覧のとおりです。</p> <p>以上で議題1についての説明は終わりました。よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。23年度の様々な事業の実績値等の説明がありました。皆様のほうから質問、あるいは御意見がございましたらお願いします。</p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>参考にお聞かせいただきたいことが1点と、意見が2つあります。1つ目は1ページの高齢者の概況というところですが、高齢化率は25%で、現実に2人で1人を支えている状況が長岡市も実態としてあるわけですが、この後、長岡市は何年後くらいに高齢化率が33%の1人が1人を支える時代が訪れるのかという数字をお聞かせいただきたいのが1点です。</p> <p>2点目は意見ですが、6月18日に認知症ケアに関する国のプロジェクトチームの報告書が出されていて、ケアの流れを変えろということについて7つの視点が挙げられていて、ほとんどが在宅、地域生活をどうするかと書かれております。私はこの実行委員会の委員をやっています、現在は不適切なケアの流れが問題になっており、一方的に家庭からグループホームに流れ、そこから施設に流れるというのが不適切だということに思われるのですが、本当の意味は一方的な流れだけではなくて、グループホームや病院から地域に戻ってくるといった逆の流れも作っておかなければならないのだということなのです。認知症ケアの大きな流れが出されているなかで、そういったことを市の5期計画なりに今後反映していただいて、日常ケアをさらにしっかりしたものにしていただきたいという要望ですので、回答はけっこうでございます。</p> <p>それからもう1つも要望なのですが、以前からお話させていただいているところで、去年の10月からサービス付き高齢者向け住宅が制度化され、住宅整備が進み始めています。しかし、これは諸刃の剣の部分があり、ひとり暮らし住宅じゃないと24時間の介護を受け</p>

	<p>づらいという側面がありますので、ひとりで暮らせるような住環境が地域にそろわないと家族介護の中に他人が入っていくわけにはいかないということがあります。それを乗り越えるための施策ではありますので、重要な項目なのですが、この住宅をどこに造るかが問題です。地域社会に住んでいることを継続するための住宅として整備したはずなのですが、実はすでに新潟市でかなり事例が出ていまして、新潟市では郊外に大規模な住宅が建てられ、そこに内付けでサービスが入れられ、建物から一歩も出ないという形になるわけです。そうすると収容施設と大差ないことになってしまいますので、本来の住宅を造るという意味では非常にスポイルされてしまいます。どこかで歯止めとして行政の指導が入るような組織等を考えないと乱立する恐れがありますので、管理できるような仕組みを作っていただきたいという要望でございます。以上です。</p>
<p>福祉保健部次長</p>	<p>それでは1つ目ですが、長岡市で5期計画を作るにあたって、地域包括ケアの目標年次である平成37年(2025年)までのデータしか持ち合わせていないなかでお話しさせていただきます。長岡市につきましては平成37年の時点で高齢化率が31.57%ということで見込んであります。74歳までの前期高齢者の数は42,596人で、平成33年(2021年)がピークであると考えております。全体の高齢者人口で言いますと平成23年が71,295人ですが、平成33年は81,469人で、そのうちの42,596人が前期高齢者でピークだと考えています。ただ、後期高齢者が伸びていくという状況で、33年の時点で後期高齢者が38,000人に対し、4年後の37年には6,000人ほど増えてくるということで、前期高齢者は少なくなっていくと思いますが、後期高齢者は増えていくという状況で見込を推計してございます。その先をこれから見込んでいきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございました。今の話ですが、2025年の団塊の世代が軒並み75歳以上になる年を目指した社会保障国民会議の計画値がありますが、考えてみたらそれまであと13年しかありません。目の前に高齢化率が30%の時代がきているわけで、かなり切羽詰まった話なのだということをつくづく思っています。そういった意味でも、なるべくケアを早めに厚めにできるように努力いただければと思っています。以上です。ありがとうございました。</p>

委員長	どうぞ。
委員	11ページに、「特定高齢者」とか「特定高齢者候補者」といった聞き慣れない言葉が出てきたので、これを具体的に説明していただきたいと思います。
長寿はつらつ課	平成23年度に特定高齢者の把握事業ということで書いてございますが、平成22年8月6日の地域支援事業の一部改正により、基本チェックリストというものを高齢者の皆さんにお配りしているのですが、いわゆる虚弱な高齢者の対象を絞る事業のことで、23年度までは特定高齢者という呼び方をしており、今現在は二次予防事業の対象者という名前に変わっております。二次予防事業対象者は、いわゆる虚弱な高齢者のことでございます。
委員長	よろしいでしょうか。どうぞ。
委員	<p>28ページです。社会福祉協議会の事業については平成元年から始まったと思いますが、地域福祉の三本柱ということで、ボランティア銀行、食事サービス、小地域ネットワークという形で出発したと思うのです。食事サービスは市内全体の横のつながりがあって、非常に広がりを感じます。ただ、ボランティア銀行、小地域ネットワークの個人ボランティアの研修がどのように行われているのかが見えてこないのです、その辺りを教えてください。</p> <p>また、介護支援専門員へのボランティア銀行の周知はどうなっているのかですが、私の地域に限って言いますとボランティア銀行を御存知ないケースがあります。私が伺っている、ひとり暮らしで介護保険を受けている方のお宅は、近所の方がとてもよく面倒を看てくださっていますが、医者に行くのは介護事業で付き添いはできません。ボランティア銀行に登録すれば万が一の際のボランティア保険もあるから大丈夫ではないかという話を、すぐして下さったのですが、地域にボランティア銀行があるという周知がどのようになっているのか聞かせてください。</p> <p>それと、ボランティア銀行や小地域ネットワーク等は地域の特性があり、その地域に任せているという一面は確かにあると思うのですが、制度が始まった時点から、私達「長岡老いを考える会」では地域の中だけではなく、地域を越えた利用ができるといいというこ</p>

<p>社会福祉協議会事務局長</p>	<p>とを希望していました。地域が確定していると別の所を利用しにくい一面があります。そのようなことも考えていただけたらありがたいと思います。</p> <p>そして、もう少し積極的に福祉に携わる専門員の方が地域に行かれて、もっと働き口を増やしていただければ、私達地域に住む者ひとり一人も関心や興味を持つと思います。社協だよりではボランティア銀行だとかが大きく出ているのですが、周知ということになると難しい面があるのかと思います。ボランティア銀行のCDについても地域で見せていただきました。ただ、それを見た後で、自分の家の世話で大変なのに、他の家に行ってはられないという声が出たのです。付き添い等の簡単なものを全面に出して、誰でもできるのだというような地域の啓発をしていただければありがたいです。以上です。</p> <p>ありがとうございます。社会福祉協議会でございます。</p> <p>今ほどの個人ボランティアの研修についてですが、ボランティア大学等の地域での様々な活動の担い手、福祉団体、ボランティア団体にいろいろとお聞きしますと、会員あるいは協力者が高齢化しており、団塊の世代の60代にもっと参加してもらえると考えていたのが、社会情勢や生活が変わったために、なかなかすぐボランティアとして協力いただける状況にないというのが残念なところです。私どももまたお願いをしまいがちですが、担い手の養成はいろいろな養成講座・研修、あるいは実際の施設の訪問、技術・知識を含めていろいろ計画させていただいて、修了されるときに必ず地域・福祉団体・ボランティア団体の活動も紹介させていただいています。実際に卒業された方がそういった活動に入られて、地域活動では中心になって頑張っている地区がたくさんございます。また地域の懇談会等を年1～2回、市内41地区それぞれでさせていただいております。その中で、周知やお願いとして事業説明もしております。やはり私どもの活動は住民参加型の活動でございますので、地域の方々に協力いただけないと成り立たない事業ですので、まずその必要性を感じていただくことが第一だと思っています。その後でできることについて協力いただきたいということをお願いしているところでございます。</p> <p>それから介護認定を受けて、専門のホームヘルパー等の支援を受けることも大事だと思うのですが、1日24時間の中でそういう方々</p>
--------------------	---

	<p>だけの支援を受けることはできないので、資格がらず、誰でもできることであれば、地域の助け合いの中でできるのではないかとということで、地区社会福祉協議会が実施主体となっていていただきます。地域の方々の協力がなければ成り立たない事業でございますので、大勢の方から登録していただき、できることをやっていたらこうということをお願いしているところでございます。</p> <p>また、地域を越えた利用というお話がございました。例えば、ボランティア銀行は昭和62年からスタートして、もう25年が経過しています。非常に長い間この形でやってまいりました。なぜこういう形にしたかということ、平成6年3月に長岡市と社会福祉協議会と一緒に長岡市福祉コミュニティ構想というものを作ってまいりました。そのなかで活動エリアを決めないといけないということで、市全体でやるより、できるだけ小さい範囲のほうがやりやすいのではないかとということで、原則は小学校区単位、なかには中学校区単位のところもございしますが、やってまいりました。やはり地区によって登録会員や利用者の状況が違うものですから、となりの地区同士で協力ができないかというお話もいただいています。先ほど言いましたように25年が経過しておりますので、見直し・検討の時期かということで、私どもも内部で検討させていただいているところでございます。実際にやっていらっしゃる皆様からも、いろいろな意見をお聞きしながら詰めてまいりたいと考えています。</p> <p>事業の周知ですが、平成23年度に新しく分かりやすいパンフレットを作りましたし、私どもが進める5つの地域福祉活動、ボランティア銀行、見守り、福祉送迎サービス、食事サービス、サロンについて、映像で理解・協力していただきたいということでDVDを作成したところでございます。当然いろいろな課題もあります。それを1つずつ一緒に考えて、前へ進めていきたいと考えているところでございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。お願いします。</p>
委員	<p>報告書の表について不整合があるのではないかと問い合わせが3点ほどあります。まずは30ページ第7章第3節1の災害時の安全確保というところの実績値の説明が先ほどありましたが、平成23年度を除く過去の実績は全て小数点一位まで書いてあるので、小数点第二位を四捨五入して桁をそろえるべきだと思います。それが</p>

	<p>1点です。</p> <p>それから25ページの第5章ですが、これも表に対する不整合があるのではないかという質問ですが、第3節1の認知症サポーター数が大幅に増えたということですが、これは表の記載の問題があるのではないかと思います。区分が延人と書いてあるということは、計画値は、延で考えたら8,000人とかにまで養成するという概要であるべきだと思うのですが、計画値は単年度の人数ではないかと思えます。同じ表の中で書いてある意味合いが少し違っているのではないかと思います。</p> <p>まずその2点について修正が必要だと思います。</p>
福祉保健部次長	<p>30ページの災害時の安全確保ですが、おっしゃるとおりだと思います。実績値の結成率のほうを90.5%、活動実績は76.8%ということで訂正させていただきたいと思えます。</p>
長寿はつらつ課長	<p>25ページの計画値につきましては、4期計画の85ページのなかに21年度125、22年度500、23年度1,000という形で記載しています。この7,884人も延人で書いてありますので、間違いありません。計画は3年に1回の計画になりますので、前に作られたものです。急激に数字が伸びたということです。</p>
委員	<p>今の説明で分かりましたが、同じ表の中に書いてありますので、少し誤解を招きやすい表記かと思えます。</p> <p>最後ですが12ページです。第3章のところですが、先ほどの御説明で特定高齢者の把握方法が変更になったので高齢者数が増加したというのは分かりました。9,000人も増加したということですが、ただしこの表の中で介護予防事業への参加意向は、平成20年度43.1%から23年度46.2%に微増しているのですが、関心のある人の割合はやはり6割くらいに減っていると思えます。人数が増えることと比率の変化は違うと思うので、ここまで比率が変化してしまうことについて、例えば下のほうに調査方法が変更になったことを書いておいたほうがいいのではないかと思います。</p>
長寿はつらつ課長	<p>分かりました。そのように対応させていただきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。どうぞ。</p>

委員	<p>先ほど委員がおっしゃったことに少し関連することかと思いません。高齢になり親戚が衰えたときの住まいの確保ということで、第4期の事業では地域密着型を進展し、実績をあげたということは分かりました。そうすると、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームといったところに、特定施設入居者生活介護を入れながら住み続けていくような形を、どのように市として構想を持っているかといった辺りについて、ケアハウスは第4期でも要望が無く第5期でも整備するという方向性は無かったと思うのですが、ケアハウスとの関連でお聞かせいただけたらと思います。</p>
福祉保健部次長	<p>委員がおっしゃったように、第5期の計画を作るにあたり、いわゆる住まいという部分については非常に重要な観点であります。特養待機者の関係で新潟市は3年間で7箇所の広域特養、地域密着の小規模特養を5箇所ということで、約5,000人いる待機者のうち、最も緊急性のある1,200人くらいを施設に住ませるという発想でした。私どもは第5期計画につきましては、要介護度が比較的軽い方やまた病院から退院して来られた方たちの住まいの施設として、あるいは特養待機者の方たちの住まいの施設としても、特定施設をニーズカウントして第5期計画を立てております。特養待機者ということで言葉を変えましたが、長岡市の第5期介護保険事業計画の住居という考え方につきましては、今ほど委員のおっしゃった特定施設を重要な部分ということで計画の中にも入れて、整備をしようと考えております。</p>
福祉保健部長	<p>委員から御質問があったのは、サービス付き高齢者向け住宅という新しい事業スキームや、従来からの有料老人ホームといった介護保険事業外の民間の住居サービスの整備ということで、この辺りも含め長岡市としてどのような考えを持っているかという御質問だったと思います。この辺りの民間の動きを詳細に把握できる状況がないというのが正直なところです。ただ、市内の高齢者の方の住まいは非常に重要なことですので、今ほど次長が説明したように保険事業で住居として想定している部分は今までの流れで推計してまいります。先ほど委員からありましたように、それに加え新しいサービスであるサ付き住宅等の民間の整備の動きを注視していく、あるいはいろいろな情報を集めながら何らかのコントロールがで</p>

<p>委員</p> <p>福祉保健部長</p>	<p>きるかどうかが大きな課題ではないかと思っております。この件について、市として具体的なビジョンは無いのですが、民間の住宅整備も含めて把握していかなければならないと認識していることを申し上げるだけです。そういうことが非常に重要だと思っておりますので、いろいろなルートを通じて、また新潟市でも動きがあると聞いておりますので、その辺も含めて情報収集していきたいと思っております。</p> <p>私は田宮病院で働いていますが、退院させるときにどこに行きたいかという希望を取ると、皆さん特養と言い、他の施設を紹介しても断るのです。理由は簡単で、特養は介護の手間が少ないことやお金の面等、いろんな意味で楽なので、本当は必要がない人でも特養を希望するのです。市の方が答えにくいのは、要望が本来の必要性を示していないこと、それから要望どおりに整備した場合、長岡もお金を出さなければならず財政も苦しいですので、様子を見ざるを得ないという面もある気がします。現実問題で、どれだけ特養が必要かというデータは出ないと思います。</p> <p>民間の高齢者住宅がどこまでのサービスをできるのかということと、一方で特養のような機能は民間ではできないので、そういった需要に対する供給をしていくことも必要だと思います。ただ、委員のおっしゃるように保険事業で成り立っているサービスは収入と支出に係ることですので、需要を賄う財源がどこにあるかということが常につきまといます。そういう意味では保険事業としても見通しが立てにくいですが、長岡市では施設入所待機者の見込みに対し、できるだけぎりぎり収容できるように保険事業の中で3か年の計画を組んでいます。先ほど委員がおっしゃたように、高齢者住宅の居住のあり方をどのように考えていくかということは、保険事業の特養やグループホーム等の整備と併せ、民間の力を借りて考えなければならず、国もそのように打ち出しています。そこでサービス付き高齢者向け住宅がどのように展開されていくのかは未知数の部分がたくさんあり、全国的にも議論がありますが、そういったところについて様々なルートで情報を得て、それに対し行政として必要な所に、必要なものが整備されるよう民間に対して誘導できるかが大きな課題だと思っています。</p>
-------------------------	--

<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。次の議題に移ります。</p> <p>(2) 第4期介護保険事業計画の実績について 事務局から説明をお願いします。</p>
<p>福祉保健部次長</p>	<p>それでは、資料 2と資料 1の22ページの進捗状況表を御覧ください。資料 2の1ページ目が地域密着型サービス、2ページ目が地域密着型サービス以外の内容でございます。左側からサービスの事業種別、圏域、事業者等が書いてあります。表の中の矢印は、事業者の都合等で整備が遅れ、矢印の終点年度で整備が完了したということを表してございますので、整備完了年月日と併せて御覧いただきたいと思っております。上乘せ整備分の説明をさせていただきますが、国が平成21年度に緊急経済対策を打ち出しまして、県に介護基盤緊急整備臨時特例補助金という名称で基金を創設し、施設整備に対する補助金の交付制度を開始しました。23年度で終了の予定でしたが、1年間延長し24年度も実施している状況です。上乘せ整備分についても事業者ヒアリングを行い、選定、交付を行ってきたところでございます。</p> <p>それでは、小規模多機能型居宅介護の説明です。網掛け部分が小計で、定員の175に対し、149の整備が完了しました。事業所は記載のとおり6法人となります。一番上の小規模多機能型居宅介護三和は、事業者の都合により開始年度と定員の変更がありました。小規模多機能型居宅介護川崎、小規模多機能型居宅介護大島につきましては、完成が24年の5月になりました。また、1か所26人分が未整備となっておりますので、これは第5期計画に含めまして整備を予定しているところでございます。</p> <p>次に地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、いわゆる小規模特養でございます。これは3か所87人の整備予定でしたが、1か所は事業者の応募が無く、2か所58人の整備に留まりましたので、1か所29人の未整備分を第5期計画に整備する予定です。特別養護老人ホーム小国あいあい及びグループホーム小国あいあいについては、法人を新規に設立したため所要の準備に時間を要し、整備がずれ込んだということでございます。</p> <p>資料 1の22ページの進捗状況表を御覧ください。今ほど未整備分の説明をさせていただきましたが、この表の小規模多機能型居宅介護と小規模特養の第4期計画の上乗せ分に、数字が入ってござい</p>

委員長	<p>ます。これが未整備分の箇所と対象人数になっています。以下同じ用に御覧いただきたいと思いますが、未整備計の欄を見ますと、の記載がございます。これにつきましては計画に対し整備が上回ったということを表してございます。二重線より上が地域密着型、下が地域密着以外の県指定の広域型サービスでございます。</p> <p>資料 2 に戻って、地域密着型合計の欄を御覧いただくと、定員の計画値461人に対し、整備数は409人で52人の未整備分がございますので、第5期計画での整備を予定しております。</p> <p>次に地域密着型サービス以外の部分でございます。通所介護は網掛けの部分で計画値が115人に対し、110人の整備が完了しております。5人分が未整備になってございます。</p> <p>その下の短期入所生活介護、いわゆるショートステイでございますが、定員9人の計画値に対し、47人の整備が完了したということで、1か所38人分を上回る整備が行われたということです。理由としてはショートステイ黒条を追加承認したためであります。</p> <p>特定施設入所者生活介護、いわゆる有料老人ホームについては、要介護者推定利用員を出しています。これは施設定員に0.7をかけて算出していますので、この数を定員数として記載しております。計画どおりの整備があったということで、未整備は0になっております。</p> <p>介護老人福祉施設入所者生活介護は、こぶし園の小規模特養サテライト型による35人の定員減ということです。それから、こしじの里の増床による40人の定員増です。また、あおりの里の中越圏域整備数6人増床について、いずれも上乘せ整備分として計画したのですが、24年度に整備がずれ込んで完了したということでございます。</p> <p>一番下の合計ですが、定員448人に対して整備数481人ということで、差し引き33人分の整備が多く行われたということでございます。以上です。</p> <p>ありがとうございました。質問はよろしいでしょうか。次に進みます。</p> <p>(3) 地域密着型サービス運営部会開催結果の報告について事務局から説明をお願いします。</p>
-----	--

福祉保健部次長

資料 3 を御覧ください。平成24年度基盤整備計画における公募選定結果でございます。公募通知日は平成24年5月16日で、ホームページや市政だよりでの周知をまいりました。公募締め切りまで約1ヶ月間ございました。整備予定事業者がそこに記載してありますが、選定につきましては地域密着型サービス運営部会のヒアリングと、部会員の書類審査により行いました。その他の介護保険サービス整備予定事業者につきましては、事務局でヒアリングを行い事業者の選定を行いました。

2枚目の表を御覧ください。今回の公募を行ったところが網掛けでございまして、申請があったところが破線部分、かっこ書きが申請のあった数でございます。定期巡回・随時対応型訪問介護看護、複合型サービスにつきましては、在宅生活を支えるため訪問看護を組み合わせ、平成24年度から創設された新サービスでございます。定期巡回は24時間日中・夜間を通じ1日複数回の定期訪問・随時対応に、訪問介護看護を一体的に連携して提供するサービスでございます。利用料金は1ヵ月ごとの定額制です。複合型サービスは小規模多機能型居宅介護と訪問看護の機能を有するサービスでございます。利用者の状況に応じまして、通い・泊まり・訪問に看護サービスを柔軟に提供することで医療ニーズの高い要介護者の支援が可能になります。こちらも利用料金は1ヵ月ごとの定額制で、事業者にとっても柔軟な人員配置が可能となり、メリットのあるサービスでございます。

定期巡回は2か所100人の募集でした。結局、1事業者が1地区で2か所を担うという申請がありましたので、資料 1 のとおり予定事業者は記載の1法人です。

資料 3 に戻っていただいて、共用型認知症対応型通所介護ですが、募集どおり7か所の申請がございました。これは書類審査で選定させていただき、予定事業者は記載のとおりです。共用型認知症対応型通所介護は、グループホームや小規模特養の居間・食堂を利用して行う認知症対応型の通所介護サービスです。1日当たりの利用定員は3名以内と決められており、利用料金は通常よりも安く設定されております。開設の要件といたしましては、介護保険事業所を3年以上運営した経験があることです。既存の事業所を活用でき、グループホームの入所までスムーズに移行できるといったメリットがございます。

小規模多機能型居宅介護につきましては1か所25人と、計画どお

<p>委員長</p>	<p>りに事業者の選定を行いました。</p> <p>複合型サービスにつきましては、募集計画9か所に対し、1か所のみ申請に留まり、記載のとおり事業者を選定いたしました。</p> <p>地域密着型以外のサービスにつきましては、特別養護老人ホーム1か所の増床30人分、通所介護の3か所70人の公募に対しては2か所55人の申請がありましたので、2事業者を選定いたしました。</p> <p>次に変更計画の承認についてです。小規模多機能型居宅介護三和をサテライト型事業所に転換するという事で社会福祉法人長岡福祉協会から変更承認願が提出されました。これにつきましては6月22日の事業者ヒアリングの最後に当該法人から変更内容等の説明をいただき、了承されたものでございます。変更内容等は記載のとおりです。以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。選定結果について報告を受けましたが、皆様から質問はございますか。無いようですので次に進みます。</p> <p>(4) その他</p> <p>それでは事務局から何かありますでしょうか。無いようですので、進行を事務局にお返しします。</p>
<p>福祉総務課長補佐</p>	<p>ありがとうございました。閉会にあたりまして、福祉保健部長よりあいさつ申し上げます。</p>
<p>福祉保健部長</p>	<p>本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今年度初めての会議でございましたが、今日は本質的な御質問や、高齢者の住まいをどうするかという広い視点から御意見をいただきました。市としても介護保険事業を運営するだけでなく、高齢者の方々の生活の仕方まで考えながら施策を進めていきたいと思っております。そういった意味で、各方面の方々から御意見をいただけるこの会議は大変貴重な機会だと考えておりますので、また御意見をいただければと思います。本日は大変ありがとうございました。</p>
<p>福祉総務課長補佐</p>	<p>ありがとうございました。本日の会議の議事録は後日お送りします。長岡市のホームページにも掲載させていただきますのでよろしく願いいたします。</p> <p>なお、大変遅くなりましたが、ここで第5期計画の策定にあたり</p>

	<p>実施した平成23年度長岡市高齢者日常生活圏域ニーズ調査の結果報告書を配布させていただきます。参考までに御覧いただければ幸いです。</p> <p>今年度の会議の予定でございますが、第2回を3月頃に開催する予定でございますので、正式な日程が決まりましたら御案内の文書をお送りいたします。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。皆様大変お忙しい中ありがとうございました。</p>
8 会議資料	別添のとおり